

世界的に稀有な  
素晴らしい火山と  
共に生きる私たち

ジオパークは「大地の公園」と表現され、地球活動による大地の遺産を守る。教育に生かし、地域経済の活性化を目指した活動をする地域だ。9月に認定された桜島・錦江湾・ジオパークに先駆け、平成22年に九州で2番目に日本ジオパークに認定されたのが、霧島ジオパーク。世界認定を目指し活動中だが、欠かせないのが、ジオガイドと呼ばれる案内人の存在だ。昨年3月から霧島ジオガイドネットワーク初代代表として活躍中の原口憲太郎さんに、霧島ジオパークへの思いを伺った。

霧島ジオガイドネットワーク

代表 原口 憲太郎さん

Kentarou Haraguchi



## ジオパークとしての霧島の魅力とは何でしょうか？

ジオパークは、「大地の公園」というだけに火山地帯の認定が多く、ライバルも多いですが、日本レベルはもちろん、世界レベルで見ても鹿児島島の火山は一番の売りです。

世界には約1100の火山、日本には約110の活火山がありますが、そのうち11カ所の火山はこの鹿児島にあります。現在設定されている国内の噴火警戒レベルは桜島がレベル3と最も高い状態ですが、霧島の新燃岳もレベル2と高い状態にある活火山です。

鹿児島に住む私たちはなかなか感じませんが、火山の活動を目当てに来る観光客もいます。霧島には20余りの火山体が集まって存在していることが珍しく、まさに火山の博物館なのです。

霧島は火山だけではありません。植物の植生も貴重です。標高差があるために温帯から亜寒帯までの植物が一つの地域で育つ垂直分布は屋久島が有名



「これからも山に登っていきたい」と語る原口さん。

ですが、同様の分布が霧島にも見られます。麓には照葉樹が葉を広げていますが、1万年以上前にできた山には、氷河期に芽生えたブナやミズナラといった亜寒帯の植物が生育しているのです。

## ジオガイドはどんなことをするのですか。

現在霧島ジオガイドには、30歳から72歳までの男女44人が登録しています。霧島市のジオガイド養成講座中級編を受けたメンバーで、ボランティアです。私は昔から山登りが好きで、定年後の10年ほど前、山岳ガイドであるネイチャーガイド1期生に応募して活動を始めました。そこから発展してのジオガイドです。同じようにジオガイドとネイチャーガイドを兼ねている人も少なくありません。

ジオガイドはジオパークの案内人ですが、山の案内や登山道整備をするネイチャーガイドの山岳の知識に加えて、その土地ならではの知識も必要です。神話などの文化や英会話の勉強会を開き、幅広い案内ができるように準備しています。

今年是世界ジオパーク認定を目指していましたが、残念ながら認められませんでした。ただ、一度で認定を受ける例はほとんどないので、これからですね。

課題は、地域の教育や地域経済の継続的な活性化です。看板などわかりやすい案内の設置も必要でしょう。地域への教

育という点では、ジオガイドは霧島市の学校へ出前講座にも出かけています。小学校3年生の総合学習の時間を使うなどして継続的に指導するので、最近では子どもたちがかなり詳しくなってきました。地域のことを知ることは、子どもたちにとっても意味のあることですね。

## 山を好きになったきっかけは？

加治木で育った私は、先輩らに連れられてキャンプをするなど、若い頃から霧島にはよく来ていました。それで山が好きになったんですね。県外の山にも登ります。夏は日本アルプスに2、3回。妻も山が好きなので、一緒に行きますよ。

山の素晴らしさは、その時々、全く違う情景に出会えることです。特に心惹かれるのは植物。見つけて写真に収めるのも楽しみです。中でも好きなのがヒメハギ。5センチから10センチの小さな植物で、春の初めにきれいな紫色の花を付けます。小さいから気づかれずに踏み潰されることも多いのですが、そんな存在であることにも魅力を感じます。甕岳や大浪池で見ることが出来ますよ。

体を動かすのが好きでマラソンやトライアスロンにも挑戦しています。やはり一番好きなのは山。九州百名山の制覇が目標で、これまでに8割以上は登っています。

## 霧島ジオパークにかける夢を教えてください。

実は3年前の新燃岳噴火で、霧島を訪れる人は激減しました。私たちはその間に勉強を始めたのです。その後客足は少しずつ盛り返してはいますが、まだ本当に回復しているとはいえません。

しかし、日本ジオパーク、そして世界ジオパークを目指す過程で、えびのエコミュージアムセンターが再整備されたり、さまざまな活動が行われるなど、霧島では多くの人が頑張っています。私のモットーは「何事も一生懸命」\*。\*でげ元のために役に立っていきたくたいです。

霧島は日本初の国立公園に指定された地でもあります。火山だけでなく、素晴らしい景観と植物の植生、そして神話があります。この4つの素晴らしさを持つジオパークとして、県内外、そして世界のみなさんに広く伝えていきたいと思っています。



世界ジオパーク認定の審査時に認定員たちに向けて説明する原口さん。

※鹿児島島の方言で「そこそこ、適当に」という意味。